

～玉川上水季節便り～

玉川上水ウォッチングクラブ観察日記

2019年2月22日

ルーペで、春を待つ木の冬芽を観察しました。ケヤキの冬芽は0.2～0.4cmととても小さく、黒っぽく三角形でとがっていました。クヌギの冬芽はコナラよりやや大きく、白い毛があります。

常緑でつる性のテイカカズラは、種子が飛ぶ季節です。つる性なので、高木にからんでいます。果実は長さ15～25cmの細長いさやで、熟すと割れて種子が飛び出します。種子の先端には白い絹糸のような毛があり、風で運ばれます。種子が飛んでいるのを見れるのはまれですが、地面をよく見たら種子が落ちているのを見つけました。(山)



テイカカズラの種子

玉川上水保全署名

5/6 (日)、6/2 (日)

10:00-10:30 雨天中止

小平中央公園南西入口

ミニ観察会

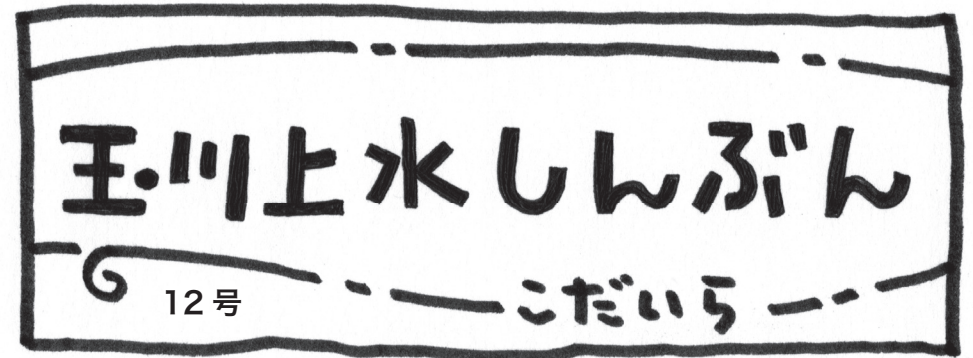
5/6 (日)、6/2 (日)

10:30-12:00 頃 4月はお休み

案内：宮元伸也さん。少雨決行。

問合せ：090-8341-9170 (水口)

*「玉川上水しんぶん」のメール配信申込は midoritsunagari@gmail.com へ。



発行日：2019年3月3日

題字：石渡希和子

発行人：みどりのつながり市民会議 <https://midoritsunagari.wordpress.com/>

問合せ先：電話 042-341-3991 メール midoritsunagari@gmail.com

大切にしたい ニホンミツバチの巣

昨年12月上旬、中央公園南の玉川上水沿いを歩いていると、虫の羽音が聞こえました。見回すと、直系約50cmのコナラの根元の洞(うろ)から数匹のミツバチが入り出していました。黒っぽい体色は在来のニホンミツバチです。

実は4年前(2015年)にも、小平四中近くの新堀用水脇の太い桜の根元にニホンミツバチの巣があり、多くの働きバチが飛び交っていました。しかし、同年9



月中旬にはニホンミツバチは全く消え、教育庁の説明板には、歩行者の安全を確保するためミツバチの巣を撤去したと書かれていました。

新たに見つかったニホンミツバチの巣が同じ轍を踏むことがないよう、12月上旬に散策者の安全と巣の保全のための措置を市の担当課に要望しました。12月下旬には遊歩道の管理受託者によって、巣のあるコナラが囲われ、ニホンミツバチは安全なのでそっと見守るよう求める丁寧な説明板が設置されました。暖かくなれば、活発に羽音が聞こえることでしょう。彼らを優しく見守ってゆきたいですね！（宮元）

小川用水の昔の分水口が 確認される

新堀用水路の上流部約 1.1 キロメートルの区間は胎内堀と呼ばれる地下のトンネルになっています。この胎内堀は西中島橋の東で一旦途切れ、約 130 メートル下流の小川橋までは水路が地表に現れています。この部分は既にあった小川用水路を新堀用水として利用したものです。そして現在、小川橋のところでは新堀用水から小川用水が分岐されています。

小川用水は小川村開拓当時に掘られた水路ですが、最初の玉川上水からの分水口（取入れ口）は、今の東小川橋付近だったそうです。その後、玉川上水の水位の変化で水の入りが悪くなったので、文化 10（1813）年に、現在の胎内堀のトンネル出口付近に分水口を移し

たとされています。このときの分水口は、明治 3 年に新堀用水を開削した時に埋められました。

現在、胎内堀のトンネル出口付近の劣化が進んでいるとのことで、昨年夏から改修工事が行われています。その工事の過程で、明治 3 年に埋められた小川用水の旧分水口の跡の一部が掘削され、位置や大きさが確認されました。V 字状に旧水路の断面が見えます。画像ではわかりにくいですが、手で触れた土質の感触は全く異なりました。元々のローム層の水路の部分は硬く、強く押ししても崩れない一方、埋戻された部分は簡単に崩れ、その違いがはっきり分かりました。

現在、この分水口跡の付近は再び埋戻して整地されています。

（矢崎）

